

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500766		
法人名	株式会社アイ・ユースネット		
事業所名	グループホームとまり木名東		
所在地	名古屋市名東区猪子石三丁目113番地ワークステーションビル1F		
自己評価作成日	平成23年 2月25日	評価結果市町村受理日	平成25年 3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371500766&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・限られた空間を有効に活用した環境づくり ・利用者さん1人ひとりに合ったケアの在り方・日常の会話の中からお希望のリクエスト料理・リクエストおやつ・お漬物をお聞きして、一緒に買い物へ行き、皆さん一緒に作り、食べて頂いている・行きたい所や季節感を感じる名所などの日帰り旅行にお出かけしたり、喫茶店や買い物なども一緒に出かけている・尊厳を大切にコミュニケーションを図り、楽しく過ごして頂ける様に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、本人・家族の意向を大切に取組んでおり、家族から「入浴日を増やしてほしい」、「シルバーカーを使わせてあげたい」など、率直な要望にも真摯に受け止めて取組んでいる。利用者の意向を取り入れて、入浴日や足浴日を充実させ、利用者の満足度を向上させている。
 利用者の日々の状態や暮らしぶりを家族に密に連絡しており、家族アンケートからは、「毎月報告があり、安心している」といった感謝の声も多い。
 利用者の意向を聞き取り、実現させた事例が多い。介護計画を具体化して、さらに充実した支援の継続に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は「最善の介護サービスを最高の誠意と人間愛を持って」であり、支援方針へのおとしこみであり、ミーティングで理念のあり方を共有し、フロアに掲示し、常にサービスに対する意識を持つように努めている	創立時からの法人運営理念をもとに、運営方針を掲げている。職員は利用者個々の個別ケアを大切にしており、サービス向上に向けての意識が高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で近所の花屋さん・スタンドの方から、あいさつ頂いたり、交流を深めている。近所の方で散歩のついでにホームに遊びに来ていただいたり、定期的にボランティアの方々にも来て頂いている	地域のボランティアによる訪問があり、継続した取り組みとなっている。また、近隣を散歩する機会が多く、地域の方との会話も増えてきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物や地域行事などを通し、地域の方々と交流したり、お話ししたり、理解を深める様に努めているが、施設から地域の皆さまに発信できる様に検討している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を活発化し、それを基に反映していく為に、レクなどの楽しい行事等にご参加いただきながら、ご家族同士のつながりをつくり、意見を出しやすい環境・ご家族さんと利用者さんの楽しい時間・施設とご家族との信頼関係をテーマに努めているが、回数が少ないので、回数とたくさんの方々にご参加頂けるように努めていきたい	家族との交流機会を持ちたいという思いから、運営推進会議に家族の参加を呼び掛けている。しかしながら、その他の関係者の出席事例がない。	定期的な開催をすれば、家族も市町村などの関係者も参加しやすくなるであろう。定期的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営上の疑問点や他施設の対応方法などの市町村との意見交換により、サービスの質の向上に努めている。区役所に行事報告書・運営推進会議議事録をお渡しして、活動状況等を把握していただく様にしている。	法人本部が市町村と連絡を取り合い、法人内各事業所に報告している。また、グループホーム協議会に加入しており、市町村と情報交換する機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて身体拘束について勉強会を実施して、今行っているケアの再確認を実施し、天気のよい日は、玄関のドアを開放して、花の水やりや日光浴、花の観察を職員と共に行う等、見守り強化に努めている。	玄関扉は開放しており、利用者は自由に外に出てひなたぼっこや外の空気に触れることができる。また、利用者は自由に行動しており、職員は身体拘束の意味を理解して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を実施し、虐待について正しく認識し、事務所の掲示して、スタッフ同志お互いコミュニケーションを図り、負担軽減・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用されている方も、お見えになりますし、必要な方には、働きかけをして活用できるように支援している。今後は、より周知徹底していきたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけでなく、具体的・事例をあげて説明して、ご理解・安心して頂ける様に努めている。不明そうなこと、疑問点をだして頂きやすい雰囲気作りをしている。信頼関係を大切に些細な不安等をみのが差に、見逃さない様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事ごとや訪問時は、直接お話をできる機会などで、意見等を頂けるようアンケートなども実施している。その他3ヶ月に1回介護計画について、必ずご意見頂けるような取り組みをしている。	家族へは、毎月個別に便りを出して、本人の生活を報告している。家族アンケートには、「病気の状態や処置の方法について連絡があり、安心している」といった感謝の声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアの本質を考え、現場の自発性を最重要視し、意見箱を設置し、その内容をミーティングで活発な意見交換できるよう、努めている。皆で決めたことなどを共有し、運営に反映して皆で運営できるよう様、努めている。	法人本部は、定期的に職員ミーティングの機会を設けて、職員の意見を聞き入れている。運営者が自ら業務に入り、職員とともに支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場状況・勤務状況等把握し、話す機会も設けて、考えていること、悩んでいること、成果などを話すことにより向上心に繋げている。労働条件も、見直しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで日々のケアの目指すものなどを皆で共有できる様にして、皆で成長していけるように努めている。その他、外部の研修に積極的に参加できるよう努めて、ここでのレベルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等で同業者とのグループワーク等で情報交換したり、他施設の行事ごとなどに出かけサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメント情報からご本人と共通の課題を見つけ、職員と同じテーブルでお茶を飲んだり、しながら、会話する機会をとれるように努めており、ご本人が安心して生活できるよう気持ちを受け止めるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に耳を傾け、ご家族の思いも受け止める様に努めている。スタッフが情報を共有して、事例等をあげたりし、ご家族様が不安な点などをお話して安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か見極めて、出来ること・できないことを明確にして、他サービスの検討も視野に入れながら、検討して頂き、納得して頂けたら、ご本人の能力を最大限発揮できるようサービス提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にできることは、職員と、共に行って頂き、共感して頂いている。いっしょにやって頂いた時は、必ずお礼を言い、喜びや楽しみを感じながら、安心した生活を送って頂き、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族さまの両方で支援するよう心がけ、行事に参加していただいたり、面会時などに写真等を見て頂いたり、情報交換しながら利用者さんが安心して生活できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・訪問された方は、家族の一員としてお迎えする様にしている。ご本人様の経歴・価値観・性格など全てにおいて理解する様努めている。ご家族様以外のなじみの方などにも、手紙や写真を送付している。	散歩中に、偶然出会った近所の畑の持ち主が、昔からの知り合いであることが分かり、再会を喜んだ。馴染みの居酒屋を聞き出し、職員が同行したところ、昔の記憶がよみがえり、思い出話に花が咲いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや行事等で職員が間に入り、コミュニケーションを図って孤立しないように配慮している。様々なことを共にして利用者様同士もお互いを知り、支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方も、遊びに見えたり、電話等で状態経過を聞き、相談・アドバイスをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に、過ごす時間やケアを行っている際に、思いや希望等を用いたりしている。意思伝達ができない方は、表情等で喜びや安心できる場やサービスが提供できるように努めている	センター方式を活用して、利用開始時に意向を聞き取ったり、本人の思いを日々の会話から聞き出してはいるものの、情報を共有する仕組みが乏しい。	工夫して、情報を共有する仕組みを構築すれば、さらに本人の意向を大切にしたい支援が可能となろう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生活歴等の情報提供が得られるように御家族に理解して頂き、事業所独自の用紙に記載してもらい、職員全員が把握し、本人らしい生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、コミュニケーションをとりながら、御本人のできることをみつけ、生活の中に取り入れる様に話し合いの場を設けたり、実際に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、意見や希望等を伺い、また利用者の担当を決め、課題点や今後の支援、カンファレンスで他職員と意見交換をしている。ご家族には、定期的にプランに対する意見書を頂き、面会時には、直接意見交換し、見直し等を実施している	モニタリングを担当制で実施しており、職員間で話し合い介護計画立案に活かしている。日常生活を安心して過ごすために、ADLを重要視して目標設定している。	理念にもある「最高の人間愛」に向けての取り組みは、介護計画への落とし込み(ニーズの反映)が鍵となる。目標をさらに具体化する取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等が介護記録表・介護日誌・申し送り・ノートに記載し、職員全員が情報共有を徹底して、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのニーズに当施設で可能な事・G・Hならではの信頼関係を築いていく為に、コミュニケーションを図り、様々可能性を全体で考え、実施し、積み重ねていく事で、利用者さんの満足の向上につながると考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの方や、医療関係・地域の方々の飲食屋さん等、さまざまな方たちに支えて頂きながら支援できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時に馴染みの医師の確認・提携医療の説明・同意を頂いております。利用者様が気軽に医師に相談できる環境を整えるよう努めている。急変時・ご家族の疑問時なども対応して頂いております	ホームの提携医を受診しており、利用者・家族からの信頼も厚い。受診後の情報は、ホームから家族へ報告しており、迅速に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により、週一回の健康チェックを実施して頂きながら、情報共有し、疑問に思うことや相談等を密に図れるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から、入院回避の為、小さな変化も見逃さない様、努めている。入院になった際は、情報提供を積極的に行い、病院・提携医療機関等密に連携を図り、早期退院できるよう努めている。面会に行き、少しでも安心して頂ける様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況・他利用者様の状況に合わせて、主治医・訪問看護・施設・ご家族で話し合う場を設けて、主治医から医療的な見解をご家族に話して頂き、希望等をお聞きして、医療連携で可能な支援を明確にお伝えして、希望に沿うように努めている。段階的に話し合いの場を設けている。	状態変化の際に、提携医と家族・ホームで話し合い、今後の方針を決めている。重度化についての指針説明時に、家族の意向を聞き取りホームと情報を共有している。	本人・家族の精神安定のためにも、早期の段階から家族の意向を聞き取り、慎重な対応を今後も期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の際に応急手当を実施しており、日常で急変が起きた場合は、記録に出来るだけ詳細に記入して、情報共有するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難誘導の方法・各役割の把握し、自力で避難ができない方に搬送練習等行っており、非常食等も準備してある。	地域避難所への避難は困難であると考え、自主防災に向けて取り組んでいる。職員交代もあり、基本を振り返るために、避難訓練の実施を計画している。	市町村・地域の防災関係情報を収集して、ホームでの対応策を検討していく取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格等を把握し、言葉使いや接し方に注意している。入浴や排泄・外出の際、声かけや誘導の順番に配慮するなどして機嫌を損ねない様に、配慮しており、ミーティングでも確認・共有し意識向上に努めている	職員は本人のライフスタイルを大切にしており、利用者が自由に暮らす姿が印象に残る。男性職員も、女性利用者に受け入れられており、入浴介助の際には歓迎されるほどである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当制により、各利用者さんの希望を見出し、好きな食べ物やおやつ作りを買い物から一緒に行き、リフレッシュし、皆で一緒に買い物・料理し、楽しい時間を過ごしている。施設内での『自由』を見出す事は、困難ですが、少しずつ小さなことからチャレンジしていく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の精神状態や健康状態を把握し、個々にあった生活の流れを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物へ出かけ、ご自身で服を選んで頂き、個性・精神の安定につなげて、服をおほめしたりして、楽しみの一環にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望する食事・おやつ・漬物等を一緒に買い物へ行き食材を選んだり、皆で作ったりと楽しんで頂いている。定期的に施設の前にて、BBQを実施して、準備や焼きなども利用者さんと一緒に手伝って頂き、ご家族さんも参加して頂いている	リクエスト料理の日を設けており、利用者が献立を決めて作っている。買い物から調理、片付けまで、利用者が主体となって活動している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量をチェックして把握し、一人一人の偏りや不足がないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、口腔ケアの声かけをして、全員の方に見守りや介助を行い清潔保持・感染症予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立を目指し、ひとりひとりの排泄感覚を把握し、声かけ誘導・介助・見守りを徹底し、自尊心の尊重に努めている	歩く機会を多く持てるように、ポータブルトイレは利用していない。声かけを大切にして、介助の手を出しすぎないように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の日数を把握し、自然に排便できるように、食事の内容を考慮したり、おなかの体操をして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調にも配慮し、拒否がある方も入って頂ける様に工夫して、声かけや誘導や入浴方法も個々に合わせた支援に努めております。フリー入浴日も設定して、希望の方に入浴して頂いております。	家族からの要望を受けて、入浴日を増やしている。入浴拒否がある場合には、時間や日程を変更して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や運動後は、休息をとって頂き、日中活動して頂き、夜は十分に睡眠がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ごとのファイルに処方せんを入れて確認し、服薬の目的・量・作用・副作用等を把握して状態の変化をチェックし、飲み忘れ・誤薬のない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり生活の中で合った役割を楽しんで頂き、満足感を持って頂いている。好みの飲み物を飲んで頂き、気分転換を図っている。日常から情報収集に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康管理に注意して、今しかできないことを大切に散歩・外出・喫茶店・食事等に外出している。定期的なバス旅行に出かけ、気分転換に努めている。	近所を散歩したり、行きつけの居酒屋へ出かけるなど、本人の希望に合わせて出かけている。また、ホーム恒例行事のバス旅行は、利用者の楽しみであり思い出作りにもつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々お金を管理して持たれて見える方はみえないが、買い物・外出の際には、社会性の継続・喜びを目的としてお金を持って頂き、お支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは、掛けて頂いております。手紙や年賀はがきもご自身で書いて頂くよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の衛生面や整備に努めている。各利用者様が落ち着いて過ごせる空間づくりに工夫し、壁にも季節感を取り入れている。その他、室温・光・湿度に配慮して心地よい空間になる様、日々配慮するよう努めている。個々に合わせたクッション・膝掛けなどにも配慮している	広い空間ではないものの、居間は利用者が寄り添い合って日中を過ごす大切な場所となっている。2階の共有スペースは、工夫次第で活用できる空間が残っている。	利用者が主体となることができる活動に向けて、2階共有スペースの有効活用を望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で過ごせるよう配慮したり、ひとりが良い方には、落ち着ける場所を提供している。気分転換に食事の席などにも配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使われていた家具や布団や写真・仏壇などを使って頂いたり、衣類のタンズなども出し入れがしやすい様に名札を貼ったり工夫し、安心して生活して頂けるように努めている	自宅で使っていた道具などを持ち込み、本人の居心地の良い空間を作っている。清潔に掃除された自室からの景色を一緒に眺め、評価員も利用者と共にほっとしたひと時を過ごすことが出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体状況・周辺状況に合わせて危険防止・安全な環境づくりに努めている。		